

2006 Interim Business Report 2006.1.1-2006.6.30

COSMO BIO CO., LTD.

第24期中間事業報告書



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

生命を科学する皆様のお役に立つこと それが私たちの使命です……

私たちは、ライフサイエンスに関わる世界中の教育、研究、検査機関の研究室や検査室に、信頼あるメーカーの製品や最新の技術情報をお届けしています。その幅広く豊富な製品群と製品情報をもとに、お客様のあらゆるニーズに応えられるサービスを誇りにしています。これまでに培われた国際的なネットワークと、質の高い情報を生かし、世界のお客様から信頼される会社としての責任を持って、ライフサイエンス研究を支援します。

経営理念

Management Philosophies

- 01 **ライフサイエンスの進歩・発展に貢献する** …… 生命と健康を守り、豊かで安心できる社会づくりに貢献します。
- 02 **お客様に役に立ち、信頼される** …… お客様に満足をお届けします。
- 03 **従業員を大切にする** …… 仕事にやりがいと生きがいを持てる職場をつくれます。

経営方針

Management Policies

- **豊富な商品群**
最新商品を含め、30万品目を超える商品を取り揃えて、幅広いお客様の研究を支援します。
- **確かな情報サービス**
カタログや定期刊行物、ホームページなどを通じて、様々な商品の情報をお知らせしています。また、ホームページでは、お探しの商品が必ず見つけられる検索サービスを提供します。
- **迅速な物流サービス**
行き届いた在庫管理と卓越した物流システムから、最短の納期で商品とサービスをお届けします。
- **信頼できる相談相手**
お客様のご要望に的確に応え、問題解決に協力します。

To our shareholders

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、上場後初の新年度を迎え、

この年を、当社の第2のスタートと位置づけ、役職員ともども、

さらなる企業価値の向上に向けた積極的な活動に取り組んでまいりました。

ここに、2006年12月期の間事業報告書をお届けいたします。

当社は「バイオの専門商社」です。

その事業領域であるとともに、当社の社会的使命でもある「バイオ研究の支援」、この責務を果たすため、当社は、バイオ研究者のニーズに、その研究動向に合わせて、タイムリーに世界最先端の技術情報や商品をご提供すべく、日々努めてまいりました。

その結果2006年上半年期におきましては、当社の商品ラインナップをさらに拡充することを目的に、東京女子医科大学発のベンチャー企業で、再生医療事業と再生医療支援事業を展開している、株式会社セルシードと国内独占販売契約を締結する等、37社の新規サプライヤーを加え、また、それらを含めた約550社に至るサプライヤーより、6万品目を超える新商品を当社の商品データベースに追加し、30万品目を超える商品ラインナップを揃えるに至りました。

プロモーション活動におきましては、業界では最大級の約12万品目に及ぶ商品数を掲載した抗体カタログの発行や、輸出用の英文カタログの発行など、積極的な活動を行ってまいりました。

さらに、上場で得た資金の有効活用のひとつとして、株式会社バイオマトリックス研究所の第三者割当増資を引き受けることといたしました。これにより、当社との将来的な連携を深めることを期待しております。



代表取締役社長 **原田正憲**

また、コーポレートガバナンスのより一層の充実にも努めており、5月にはリスク管理に関する組織体制を見直し、新たにリスク管理委員会を設置し、今後組織的なリスク管理を推進してまいります。

今後もコア事業の基盤づくりに取り組んでいくとともに、輸出などの新しい事業にも積極的に取り組むことで企業価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

What we do 事業内容

事業ドメイン「バイオ研究支援」

■ 基礎研究ステージを中心に幅広い領域をサポート

日進月歩で進化するバイオ分野において当社は、「バイオ研究支援」を事業ドメインとしております。バイオ研究の流れは「基礎研究」からはじまり、基礎研究の成果を実用化するための「応用研究」、

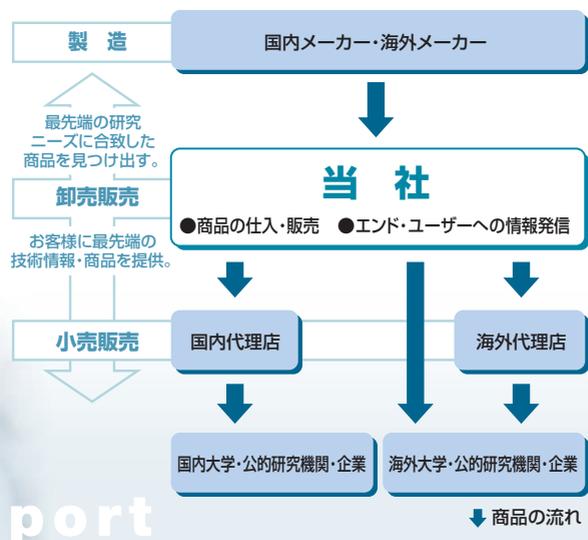
そして製品化に向けた「開発研究」という大きく3つのステージに分類されますが、その中で当社は「基礎研究ステージ」を中心に幅広い領域をサポートしております。



ビジネスモデル

■ ライフサイエンスに貢献する信頼のバイオ専門商社

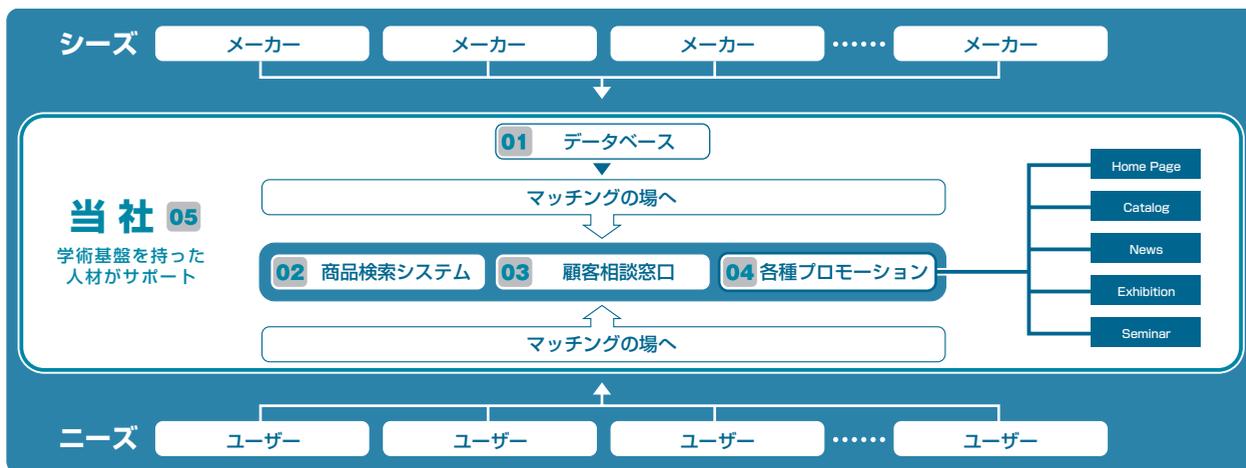
当社は最先端のバイオ研究試薬・機器・臨床検査薬の販売と情報サービスを行う専門商社です。世界中のメーカー約550社から商品を仕入れ、代理店を通じて、エンド・ユーザーである大学、公的研究機関、企業等の研究者の高レベルで多様なニーズにお応えしております。また、国内発の先端的技術を世界にお届けすべく、海外への輸出事業も手掛けております。当社は、代理店を活用した事業展開をしており、支店・営業所などの設備投資等の経費を必要としないビジネスモデルとなっております。



ビジネスの特徴

■膨大な商品と多様なニーズのマッチング

最新の研究動向に合わせた高度な商品情報で、バイオ関連研究用試薬に対するユーザー(研究者など)のニーズにお応えしています。



01 世界各国のメーカーから発信される膨大な商品情報を日々収集し、データベース化しております。

03 高度な専門知識を持つ相談窓口を設置し、商品に関する情報提供のみならず、実験に関する相談など幅広いサービスを提供しております。

05 このような高度なサービスを提供するために、学術的な基盤を持った人材が多く活躍しております。

02 データベースに登録された30万品目を超える商品情報を用いて独自の検索システムを構築しております。

04 各種のカタログと当社のホームページでも商品を紹介しており、さらに学会の展示会を利用して当社主催の学術セミナーを開催するなど、積極的なプロモーション活動を展開しております。

当社の取り扱う代表的な商品、抗体とは？

当社の売り上げの約90%を占める研究用試薬、その内約50%を占めているのが「抗体」と呼ばれるバイオ研究用試薬です。

当社が取り扱うバイオ研究用試薬は、身近でお使いになれる「くすり(医薬品)」とは少し違うものです。

医薬品は、病気の治療(飲み薬や注射薬)のため人体に直接使用したり、診断に用いたりするもの(臨床検査薬)ですが、バイオ研究用試薬は様々な研究施設で、様々な実験活動に使用され、**大変高価^{*01}**なものです。当社は多くのバイオ研究用試薬を取り揃えていますが、なかでも抗体が主力商品です。

鳥類や哺乳類といった比較的高等な動物は外的な異物の侵入防御として免疫システムを持っています。その免疫システムの主役が抗体です。抗体は免疫系細胞で作られるタンパク質で、抗原と呼ばれる特定の物質にのみ結合する、いわば鍵と鍵穴のような機能を持っています。

例えば右図のように、抗体Aは丸形の抗原にのみ反応し、ほかのものには反応しません。しかも、非常に高感度なため、ごく微量の

抗原を検出できます。この反応を応用し、例えば癌細胞の有無等を調べることもできます。癌細胞のケース以外でも、様々な種類の抗体が、様々なバイオ研究で幅広く用いられています。抗体は、バイオ研究において**実験対象の情報を与えてくれる^{*02}**という点で、大変優れた道具です。

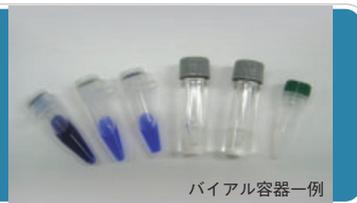
当社では、業界最大規模の約14万品種の抗体を取り扱っており、多くの研究者のニーズに応えることができます。



● 試薬は高付加価値品

バイオ研究用試薬は大量製造が困難なものがほとんどで、通常100 μ g(マイクログラム: 100万分の1グラム)といった、ごく微量で販売(単価は3-5万円程度)されています。

ダイヤモンドは1カラット(0.2g)で100万円くらいですから、100 μ gに換算すると500円ということになります。



● 実験対象の情報を得る

例えば、理科の実験で使われるリトマス試験紙は、対象物が酸性、アルカリ性、あるいは中性である、といった情報を与えてくれます。研究活動の大半が、実験対象の情報を得るために行われています。

Interim Business Overview

当中間期の概況

事業の概況

当中間会計期間における当社を取り巻くバイオ関連研究の環境は次のとおりでした。

国立大学等の独立行政法人におきましては、例年に比べ予算執行の時期にやや遅れが見られました。製薬会社をはじめとする民間企業におきましては、研究開発テーマを絞込みながらも研究開発予算は堅調な増加傾向が続いておりました。また仕入先である海外メーカーが国内販売代理店の数を増やす動向もあり、市場における販売競争は激化しております。

このような背景のもと、当社は長年培われた商品開発力、インターネットをはじめ各種メディアを活用した顧客への情報発信、顧客サービスの充実、当社代理店を活用した販売促進及び輸出への注力等により、業績の向上に努めました。

その結果、当中間会計期間におきましては、研究用試薬、機器を

中心に売上高は前年同期に比べ196百万円増加して3,052百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

研究用試薬

研究用試薬につきましては、当社では引き続き仕入先及び販売品目の開発に努めた結果、売上高は前年同期比6.9%増の2,761百万円となりました。

機器

機器につきましては、超音波細胞破碎装置の輸出が好調であることを主に、売上高は前年同期比13.7%増の193百万円となりました。

臨床検査薬

臨床検査薬につきましては新規品目の追加がなく、売上高は前年同期比5.4%減の97百万円となりました。

●売上高



売上高は前年同期比6.9%増の3,052百万円となりました。当中間会計期間においては、新規仕入先37社を開拓し、当中間会計期末で当社仕入先及び取扱商品数は547社/33万8千品目に達しました。これは業界最大規模です。研究用試薬では、抗体を中心に堅調な伸びとなり、機器におきましては特に輸出を中心とした超音波細胞破碎装置が好調でした。

●営業利益



営業利益はほぼ予算通りに推移し、509百万円（前年同期比11.4%減）となりました。これは主に、当中間会計期間における為替相場が予算通り期中平均115円/ドルと、前年同期の期中平均106円/ドルに比べ大幅な円安となり売上原価が上昇したことによるものです。

Interim Financial Statements

中間財務諸表

損益計算書

単位：千円

科目	期別	第24期中間	第23期中間	第23期
		(自2006年1月1日 至2006年6月30日)	(自2005年1月1日 至2005年6月30日)	(自2005年1月1日 至2005年12月31日)
【経常損益の部】				
営業損益の部				
売上高		3,052,121	2,855,289	5,498,485
営業費用		2,542,575	2,280,370	4,626,663
売上原価		1,711,090	1,544,716	3,006,565
販売費および一般管理費		831,485	735,654	1,620,098
営業利益		509,546	574,918	871,822
営業外損益の部				
営業外収益		3,550	128,744	206,385
Point 1 デリバティブ評価益		—	124,361	196,379
その他		3,550	4,383	10,005
営業外費用		57,637	35,031	107,233
たな卸資産廃棄損		25,271	15,675	43,772
Point 1 デリバティブ評価損		30,503	—	—
その他		1,861	19,355	63,189
経常利益		455,458	668,631	970,973
【特別損益の部】				
特別利益		3,478	1,733	1,697
特別損失		16	421	652
税引前中間(当期)純利益		458,920	669,944	972,018
法人税、住民税及び事業税		173,557	283,825	417,694
法人税等調整額		21,503	△ 15,153	△ 20,698
中間(当期)純利益		263,858	401,272	575,022

Point 1 デリバティブ評価損益

デリバティブ評価損はほぼ予想通りの30百万円でしたが、前年同期はデリバティブ評価益が124百万円であり、その差額は154百万円に達し、経常利益を大きく下押ししました。デリバティブ評価損益は、前会計年度末と当中間会計期間末の為替レートを比較して、円安の場合は評価益が、円高の場合は評価損が発生し、営業外損益に計上されます。

貸借対照表

単位：千円

科目	期別	第24期中間	第23期中間	第23期
		(2006年6月30日現在)	(2005年6月30日現在)	(2005年12月31日現在)
【資産の部】				
流動資産				
現金及び預金		3,665,218	3,108,225	3,651,212
受取手形		632,543	726,991	698,439
売掛金		541,901	467,432	579,031
有価証券		1,220,455	1,228,270	1,214,243
商品の他		701,325	201,309	602,704
その他		473,828	411,291	444,555
その他		95,164	72,929	112,238
固定資産		1,341,115	291,926	1,539,614
有形固定資産		35,327	26,011	28,929
無形固定資産		20,729	26,261	20,900
投資その他の資産		1,285,058	239,653	1,489,785
投資有価証券		935,376	—	1,104,862
長期性預金		100,000	—	100,000
その他		249,682	239,653	284,923
Point 2 資産合計		5,006,334	3,400,151	5,190,827
【負債の部】				
流動負債				
支払手形		796,455	951,172	1,072,326
買掛金		59,931	66,537	73,944
短期借入金		373,683	372,016	420,001
1年内返済予定の長期借入金		20,000	20,000	20,000
その他		—	99,300	99,300
その他		342,839	393,318	459,079
固定負債		189,571	224,468	227,980
退職給付引当金		115,301	116,481	127,148
役員退職慰労引当金		66,690	84,550	93,210
デリバティブ負債		7,580	23,437	7,622
負債合計		986,026	1,175,641	1,300,306
【純資産の部】				
純資産合計		4,020,307	2,224,509	3,890,520
Point 3 負債・純資産合計		5,006,334	3,400,151	5,190,827

Point 2 資産

当中間会計期間末の総資産は5,006百万円となりました。これは主に、短期借入金の返済等により現金及び預金が前会計年度末に比べ65百万円減少したこと及び売上債権(受取手形及び売掛金)が低水準となる時期のため前会計年度末に比べ30百万円減少したことによるものです。

Point 3 負債及び純資産

当中間会計期間末の負債合計は986百万円、純資産は4,020百万円となりました。これは主に、期限の到来した99百万円の借入を返済したこと、売上のピークとなる前会計年度末に比べ仕入債務残高(支払手形及び買掛金)が低水準となる時期のため前会計年度末に比べ60百万円減少したこと等によるものであります。

株主資本等変動計算書 第24期中間(自2006年1月1日 至2006年6月30日)

単位：千円

	株主資本							株主資本 合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金					
				特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金			
2005年12月31日残高	898,675	1,202,235	21,750	1,513	1,000,000	766,345	1,789,610	3,890,520	3,890,520
中間会計期間中の変動額									
特別償却準備金取崩				△ 1,513		1,513	—	—	—
剰余金の配当						△ 112,571	△ 112,571	△ 112,571	△ 112,571
利益処分による役員賞与						△ 21,500	△ 21,500	△ 21,500	△ 21,500
中間純利益						263,858	263,858	263,858	263,858
中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	△ 1,513	—	131,301	129,787	129,787	129,787
2006年6月30日残高	898,675	1,202,235	21,750	—	1,000,000	897,647	1,919,397	4,020,307	4,020,307

株主資本等変動計算書

2006年5月1日施行の会社法に伴い、「株主資本等変動計算書」が新設されました。これは「貸借対照表」で新設された「純資産の部」の中で、主に株主の皆様へ帰属する株主資本等について、その1会計期間における変動事由と変動額をご報告するために作成する計算書類です。

キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

科目	期別	第24期中間	第23期中間	第23期
		(自2006年1月1日 至2006年6月30日)	(自2005年1月1日 至2005年6月30日)	(自2005年1月1日 至2005年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		87,826	99,636	201,733
投資活動によるキャッシュ・フロー		55,694	△ 6,744	△ 1,617,575
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 211,871	△ 48,746	1,426,885
現金及び現金同等物に係る換算差額		2,453	△ 1,531	3,019
現金及び現金同等物の増加額		△ 65,896	42,614	14,063
現金及び現金同等物の期首残高		698,439	684,376	684,376
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		632,543	726,991	698,439

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、87百万円の収入となりました。これは主に、税引前中間純利益が458百万円の収入となった一方で、法人税等の支払による支出が262百万円となったこと等によるものです。投資活動によるキャッシュ・フローは、55百万円の収入となりました。これは主に、有価証券の償還による収入100百万円に対し、事業拡大の一環として株式会社バイオマトリックス研究所へ32百万円の出資を行なったこと等によるものです。財務活動によるキャッシュ・フローは、211百万円の支出となりました。これは主に、配当金支払による支出112百万円及び長期借入金の返済による支出99百万円等によるものです。以上の結果から、当中間会計期間における現金及び現金同等物残高は、期首の698百万円から632百万円となりました。

独占販売を開始しました細胞培養器材「セル」シリーズのメーカーである株式会社セルシードについて、ご紹介します。

株式会社セルシード(以下、同社とします)は東京女子医科大学と提携して独創的な細胞組織工学技術を展開し、培養した細胞をダメージを与えずに回収できる世界初の「細胞シート工学」という革新的な技術開発に成功しました。これらの先進技術を元に、患者自身あるいはドナーから提供されたごくわずかな細胞を培養し、角膜や皮膚をはじめ、安全で質の高い様々な組織・臓器を再生し、患者さんの障害のある組織・臓器と置き換える、21世紀の新しい医療、すなわち「再生医療」の実現を目指しています。

生物は高度な複雑性を持ち、その機能や構造を調べることは容

易ではなく、また薬剤研究などは、直接人体を用いて行うことはできません。そこで細胞レベルでの研究がなされるわけですが、その際に同社の持つ、ダメージを与えずに細胞を回収してくる技術は、再生医療だけでなく、他のバイオ研究にも大いに貢献します。

このように再生医療の実現や細胞機能の解明を目指す同社及びその製品群は、今後ますます期待されます。当社は同社の製品を販売することにより、その事業に貢献していきたいと考えています。

セルシード社の技術 ～「セル」シリーズについて～

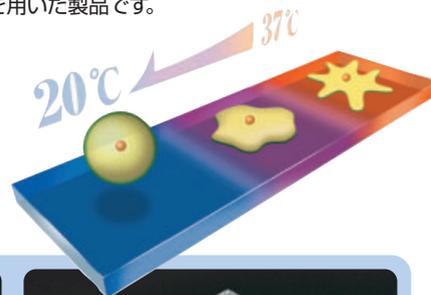
細胞を通常のシャーレで培養すると、細胞はシャーレにはり付いてしまいます。この細胞を回収するには、通常はトリプシンというタンパク質分解酵素を使います。つまり、シャーレに結合しているタンパク質を分解して無理やり剥がしているのです。これでは細胞に傷がついてしまい、正しい実験結果を得られない場合があります。

これを解決するのがセルシードの開発した画期的な細胞回収用温度応答性器材「レプセル[®]」です。これはシャーレ上に特殊な素材をコーティングしたもので、温度を変化させるだけで、はり付いた細胞を剥がし、無傷な状態で回収することができます。

technical

ほかに、細胞がほとんど付着しない新素材をコーティングした超低付着性細胞培養器材「ハイドロセル[®]」も他社の追随を許さないユニークな技術を用いた製品です。

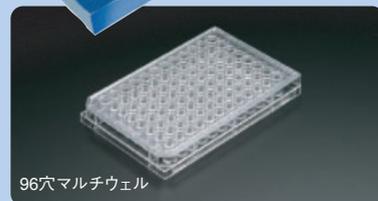
37℃で培養した後、20℃に変化させると細胞が剥がれます。



「レプセル[®]」製品例



ディッシュタイプ



96穴マルチウェル

Corporate Data & Stock Information

会社概要/株式の状況

会社概要 (2006年6月30日現在)

商号	コスモ・バイオ株式会社
設立年月日	1983年8月25日
所在地	〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
資本金	898百万円
事業内容	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の輸出入及び販売
社員数	68名
役員	代表取締役社長 原田 正憲 常務取締役 柴沼 篤夫 常務取締役 高木 勇次 取締役 田中 知 取締役 鈴木 忠 取締役 笠松 敏明 取締役 櫻井 治久 常勤監査役 松本 眞和 監査役 佐々木治雄 監査役 堀米 泰彦

「株式の分割ならびに2006年12月期配当予想の修正に関するお知らせ」

2006年9月30日を基準日として普通株式1株を2株に分割し、期末配当予想を1,900円(分割前3,800円)から2,500円(普通配当1,900円+特別配当600円。分割前5,000円)に修正することを2006年8月11日の取締役会にて決定いたしました。

株式の状況 (2006年6月30日現在)

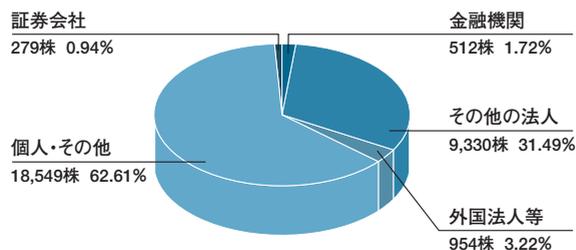
株式の状況

発行可能株式総数	91,808株
発行済株式の総数	29,624株
株主数	2,234名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	5,760	19.4
コスモ・バイオ従業員持株会	3,744	12.6
コスモ石油株式会社	2,880	9.7
福井 朗	2,160	7.3
原田 正憲	1,080	3.6
柴沼 篤夫	720	2.4
高木 勇次	720	2.4
田中 知	720	2.4
鈴木 忠	720	2.4
松本 眞和	720	2.4
村岡 猛	720	2.4

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当金 12月31日 (中間配当金の支払いを行うときは毎年6月30日)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.cosmobio.co.jp/

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電 話 (通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部)
0120-684-479(大阪証券代行部)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
Tel.03-5632-9600 Fax.03-5632-9613

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、右記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード : 3386



携帯電話からもアクセスできます
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



空メールによりアンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)



●アンケート実施期間は、本中間事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2006年11月30日まで)です。ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差しさせていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900 MAIL:info@e-kabunushi.com



古紙/リブ配合率100%再生紙を使用し、大豆油を利用したソイインキを使用しています。